

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善をする。また開室時間の延長を検討する。	→「法学部資料室の図書・雑誌の収納方法およびレイアウトの改善状況（新たに確保できたスペースの広さ）および開室時間の延長の有無」	C
2. TAの採用数を現在よりも増やして学生の多様な要求に対応できるようにする。	→「前期課程大学院生からのTA採用数」	D
3. 教材作成、試験問題作成用の録音ブースを設置することで学生の外国語運用能力の育成をはかる。	→「録音ブース設置の有無」	D
4. 学部単位の会議数および会議所要時間を現在より削減して研究時間を確保する。とくに長時間にわたる教授会は回数の削減とともに2時間以内に終了できるようにする。	→「会議数、会議時間の削減状況」	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.4	(方針) 法学部では「教育研究を支援する環境や条件を適切に整備するために」4項目の目標を設定して実現を目指している。 (現状説明) 設定後間もないこともありまだ多くの項目が実現には至っていない。
☆ その他	

《特定6項目データ》

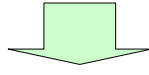
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】		単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	専任教員一人あたりの授業時間数	時間	→	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照
指標2	教学補佐	人	12	13	24	14	12	他に、契約助手2 (2005、2006、2007、2008、 2009、2010年度)
	実験実習指導補佐・ 授業補佐の採用数	人	3	3	3	3	3	
	授業補佐	人	0	0	0	0	0	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.4	「目標1. 開室時間の延長を検討する」については、2010年度秋学期から法学部本館西側にカードリーダーを設置し、院生がカードキーで書庫に入れることが決まっている。
	その他	



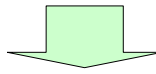
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目9.0.4	「目標4. 学部単位の会議数および会議所要時間を現在より削減して研究時間を確保する。とくに長時間にわたる教授会は回数の削減とともに2時間以内に終了できるようにする」については、会議の種類、時間も増える傾向にある。減らそうとする意志が求められる。
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目9.0.4	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- T Aの採用は、予算上の制約はありますが、学生のために増加することが期待されます。
- 会議数・会議時間の削減については、更なる工夫が求められます。

【学内委員】

- 自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。そのためにも要素を視野に置きながら本シートを見ただけである程度のことわかるよう、もう少し詳しくご現状説明をお願いします
- 現在、設定されている評価目標で十分ということであれば不要ですが、法学部は担当授業時間の平均が、教授・准教授ともに全学でもっとも多い(大学基礎データ22表)ので、その改善を評価目標に加えることもありうると思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 担当授業時間の削減に努める。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S1	個人研究費・研究旅費の額
9.0.0.S2	留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況
9.0.0.S5	科研費の申請・採択件数
9.0.0.S6	学外からの研究費の総額と一人当たりの額
9.0.0.S11	専任教員の発表論文数
9.0.0.S13	学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
9.0.0.S14	21世紀COEプログラムの採択状況
9.0.0.S15	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
9.0.0.S16	特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
9.0.0.S18	校地、校舎、講義室・演習室等の面積
9.0.0.S21	教室の種別数と使用率
9.0.0.S22	PC設置台数
9.0.0.S23	研究設備(文科省補助、学院購入)の整備状況
9.0.0.S24	シャトルバスの利用状況

<個別的な指標>
